

建設地	: 神奈川県海老名市	竣工	: 令和2年5月	敷地面積	: 117.91㎡
地域区分	: 6地域	用途	: 専用住宅	延床面積	: 84.28㎡
設計者	: (株)シティ環境建築設計	構造・階数	: 木造軸組・地上2階	建築面積	: 42.14㎡

## ■提案の概要

- 海老名市内に残された文化財の屋根形などの景観要素を取り入れ、密集市街地にあっても静寂な緑陰小住宅となるような外観・外構を計画している。身の回りの素材で作り上げることが原則とし、天然乾燥の国産材・藁床いぐさ畳表・国産植物系断熱材で計画し、長寿命の家づくりに必要な維持管理を支える職人衆の技能の継承を図るために、手刻みと組立・和瓦葺き・土塗壁・板金等の手仕事の場としている。
- 夏は南風が多い海老名市の風向きを考慮し、1、2階ともに南面に大開口を設け、南北に風が抜けるように引戸を中心に計画し、通風効果の向上を図っている。  
夏の日射遮蔽を目的に、南側窓上に切り除けを設け、西側窓や南側には竹簾を吊り、冬の日射取得のために南と西に大きな窓を設けている。
- 建物周辺の地表面温度上昇を抑えるために、敷地内緑化率を高め、落葉樹の植栽を計画している。



海老名の歴史的景観に配慮した屋根型と外観





古色塗りの板張り外壁




開放的な中でも床の高低差で変化をつけた室内空間

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□続き間 


1階の洋室と和室を続き間としている。  
2階の各室を引き戸で仕切り空間に可変性をもたせている。





続き間



大断面構造体+部材現し

□大断面構造体+部材現し 

無垢材の製材、断面の大きな構造材を、現しで使用している。

□多層構成の建具  



東西南面全ての窓に内障子を設置している。





多層構成の建具



土塗壁

□土塗壁  

厚さ70mm。  
国産植物系断熱材(40mm)を入れている。

□木製建具  

玄関に地場で製作される木製建具を使用している。




木製建具



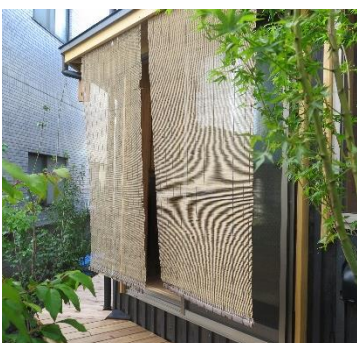
地窓

□地窓  

和室に地窓を設置し通風に配慮した設計としている。

□すだれ・よしずの利用  

南側・西側窓に竹簾を設置し、夏季の日射対策に配慮している。



よしず・すだれの利用



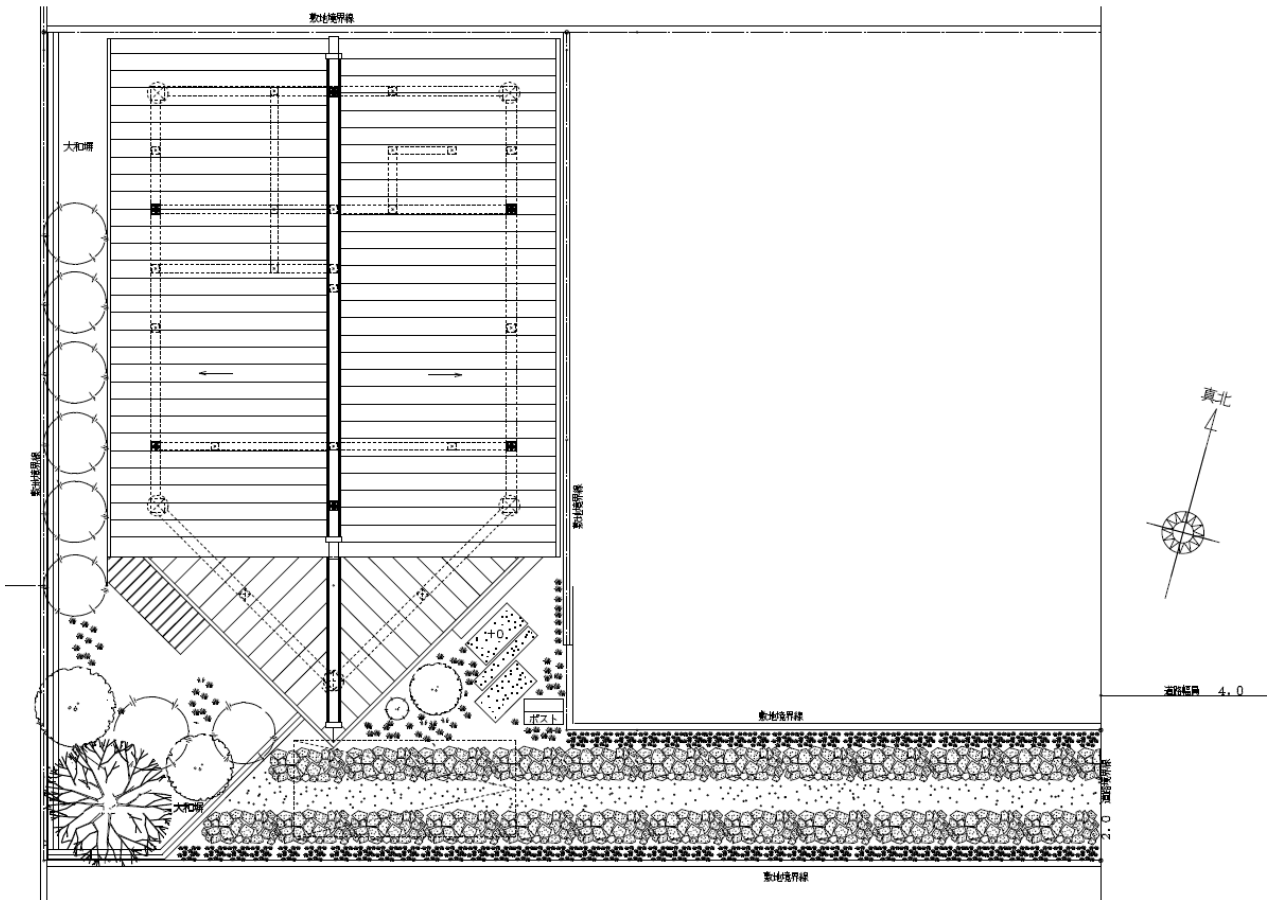
外構・緑化

□外構・緑化  

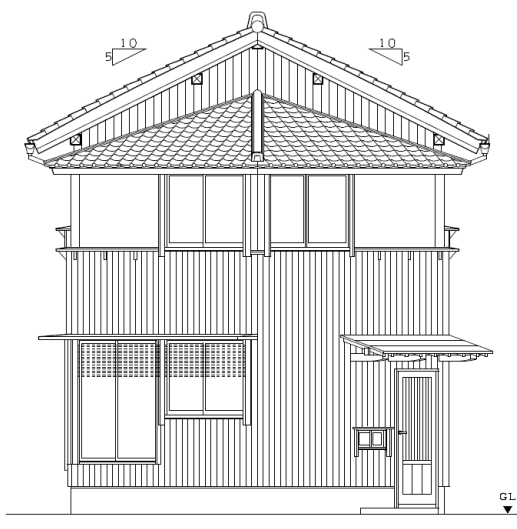
日射や通風に配慮した高木・中木・低木を組合せた植栽により、周辺との調和や連坦、生物の生息環境の保全にも配慮している。

■エネルギー性能（採択時）

項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（神奈川県海老名市）	
外皮平均熱貫流率（ $U_A$ 値）	0.87以下	1.29 W/( $m^2 \cdot K$ )
一次エネルギー消費量	87.1以下	68.0 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.84



配置图

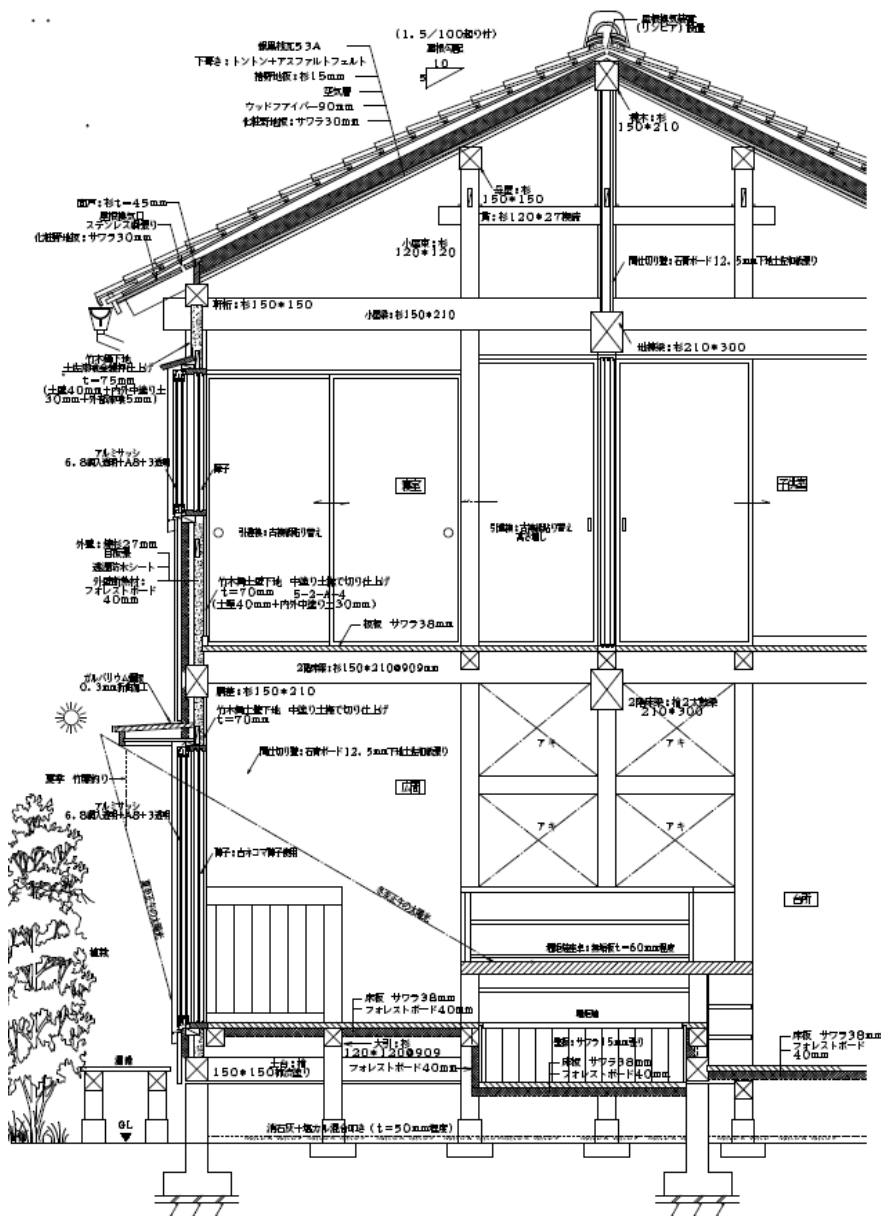


南侧立面图



东侧立面图





矩計図

■お施主様の声

家を建てるなら、木の温もりや和を感じる居心地の良い空間の中で、家族が交わりながら楽しく暮らせ、年月とともに愛着の出てくる住まいがいいと探していたところ、雑誌でシテイ環境建築さんを知り、高橋さんの家づくりに対する思いに共感でき、依頼しました。

南側と西側の大きな窓により、朝日から西日まで時間の経過を感じられるとともに、部屋の中からも庭の草木を感じられる暮らしを楽しんでいます。風通しがとても良く、快適で安らぎを感じます。床の段差は、空間に変化を与えるだけでなく、腰かけて話をするなどいろいろな使い方をしています。太い柱は、子供が抱きかかえたりするなど木の感触を楽しんでいます。

自作の大和塀やアプローチの苔だけでなく、今後は石を敷いたり花を植えるなど、自然を感じられる庭づくりを充実させていきたいと思っています。

■設計者の声

設計に当たり、歴史の浅い住宅市街地の中で、海老名という地域性を出すために、市内の国分寺跡や木造七重塔などの屋根形状を手掛かりとしました。

また狭小宅地に対しては、茶室の露地空間のように街中の雑踏を忘れる「市中の山居」となることを考えました。また、旗状敷地を活かし部屋と一体となった坪庭的な緑地を設け、敷地内だけではなく周辺にも潤いを与えるように配慮しました。

周辺の建物や空間の正確な状況把握は、狭小宅地における採光・通風の確保とともに、間取りや床にレベル差のある床空間構成にも活かされています。

今回のような、四方が囲われた密集市街地における狭小宅地でのコストバランスに配慮した住宅提案により、今後の気候風土適応型住宅の一つの可能性・方向性を示すことができたと考えています。